

## パナマ運河の通航制限による物流への影響

大西洋と太平洋を結ぶパナマ運河が深刻な水不足を受け、長期にわたり、通行する船舶の通航制限を強化しています。本号では、この措置による物流への影響についてご連絡いたします。

### 1. 世界三大運河の一つ、パナマ運河

1914年に完成したパナマ運河は太平洋とカリブ海を南北につなぐ全長約80kmの閘門(こうもん)式運河です。エジプトのスエズ運河が海面を直接結んでいるのに対し、運河中央に位置するガトゥン湖(人造湖)は海拔26mにあるため、3段階の閘門を設けることにより、船の水位を上下させて通航させる方式を採用しています。



パナマ運河の様子(写真:AP/アフロ)

### 2. 運河の通航状況

在パナマ日本大使館によると、2022年度にパナマ運河を通航した船舶は13,003隻です(パナマ運河庁の年度ベース)。うち、日本を発着とする貨物量は38,539,423トン(全体の13.3%)で、取扱量は米国・中国に次いで第3位です。パナマ運河を通航する船舶の主要海上輸送ルートは米国東岸—アジア間で、近年このルートのシェアはさらに増しており、2022年度は全体の52%を占める結果となりました。

### 3. パナマ運河庁(ACP)による度重なる喫水制限

パナマ運河では例年、乾季に水不足が発生しています。パナマ運河では通常の通航量を保つのに一日に5,000万ガロンの水を消費しますが、今年は降水量が少なく、ガトゥン湖の水位が大幅に低下していることから、パナマ運河庁(ACP)は、春頃から通航船の最大喫水制限を段階的に強化する措置を講じてきました。

8月16日にも、パナマ運河は通航許可隻数を最大32隻に制限する制限を9月2日まで延長すると通知しました。(この時期には通常1日36隻の通航が認められております。)

一連の措置により、同運河内では大規模な滞船が発生しており、大西洋側・太平洋側ともに滞船期間は平均約20日となっています。トランシップされる貨物が予定された本船に積載できずに順番待ちとなるケースや、北米東岸から西岸へのシフトや、スエズ経由にシフトする動きも出つつあります。通航許可隻数が絞られることで、運賃の上昇も予想されます。

上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



【出典】在パナマ日本国大使館 <https://www.panama.emb-japan.go.jp/files/000360415.pdf>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリントピックス バックナンバー